

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401073		
法人名	株式会社 サカイ		
事業所名	グループホームあじさい 1階		
所在地	愛知県名古屋市中区中沼町108番地		
自己評価作成日	平成30年 8月 22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&Jl_gvosvoCd=2370401073-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「色とりどりのあじさいのように、そのひとらしく」を理念に入居者様一人おひとりに合ったケアに取り組んでおります。入居者様のより良い生活についてや自立にむけた支援を行っております。また、地域に根ざしたホームを目指し、地域の様々な催しに参加または、地域への協力を行っている。毎日出かける買い物(スーパー、花屋)や、お出かけ(公園、喫茶店)へ積極的に地域に出向き、地域の方々と顔なじみの関係づくりに努めています。最近では、畑を近隣の方からお借りし、ご利用者様と地域の方、ご家族様とで野菜作りを行い食卓へ並んだり、近隣へお配りしている。入居者様にもこの地域の一員として安心して過ごしていただけるよう引き続き努力していきたいと思っております。医療的な面では、月に2回ある往診時やその他の時間でも主治医と相談連絡できる関係作りを行い、薬剤師の先生には内服薬の説明、飲み方など職員にわかりやすく、その都度細かく説明して下さっている。職員の個々の専門性を高め、入居者様に質の高いケアを提供できるよう積極的に社内研修の参加や、ホームでの毎月の勉強会にも力をいれております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、地域で行われている様々な行事に参加する機会をつくっており、地域の方にホームを知ってもらう取り組みが行われている。家族についても、家族の参加が得られている行事の開催や家族からの要望等に柔軟に対応する職員体制がつけられている。ホームでは畑を作っており、利用者も畑の手入れに参加しながら、日常生活が前向きになるような取り組みが行われている。また、当ホームは運営法人が初めて手がけたグループホームでもあるため、当ホームから得られた様々な経験が、その後開設した関連事業所の運営への反映にもつながっている。運営法人が複数の介護事業所を運営している利点を活かしながら職員研修を実施しているが、様々な研修については各事業所の管理者が分担して実施しており、法人全体で職員の資質向上に向けた取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やモニタリングの機会には「その人らしく」ケアについて話し合いを行っている。目につきやすい所に掲示してあり、朝礼にて唱和している。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本にしながら、毎月のスローガンやホームでも独自の理念をつくっている。また、理念については、毎日の朝礼時に職員間で唱和しており、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な行事(盆踊り、バス旅行、餅つきなど自主防災訓練)に参加している。地域の民生委員さん主催の大正琴演奏ボランティアの受け入れ、その後のお茶会などにも参加していただき、クラブの会にも参加	地域の自治会に入り、地域の様々な行事に参加したり、ホームで開催した行事の際には地域の方の参加が得られる等、地域の方との交流が行われている。また、地域のサロンにホームからも参加する機会もつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議など、地域の方々が集う場では、意識的に認知症について、話題提供させていただき、地域の方からの質問にもお答えしている。地域の65歳以上の一人暮らしの高齢者のボランティアの受け入れなど。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のなかで、ホームの活動内容や行事の報告等を行い、意見の投げかけや、情報提供していただけるような働きかけを行っている。	会議の際には、ホームの運営状況を記載した資料に基づきながら報告しており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、複数の地域の方の参加が得られていることで、情報交換にもつながっている。	家族の出席については、ホームからも案内が行われているが、現状、限定された方が中心となっている。ホームからの継続した家族への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員の方にも、運営推進会議の参加を促がしている。会議録などもお渡ししている。	ホームでは生活保護の方の受け入れが行われており、市の担当部署との情報交換等が行われている。市の研修会等の際にはホームからも職員が参加する機会をつくっている。また、地域包括支援センターとの情報交換等にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して、身体拘束に当てはまる内容の確認や、職員同士で意見交換できる機会を設けている。現在玄関は施錠している。30年6月より年間4回の身体拘束廃止会議を実地している。	身体拘束を行わない方針のもとで支援が行われており、利用者の状況に合わせた支援が行われている。また、運営法人で専門の委員会を組織しており、定期的な検討会や研修会を実施する等、身体拘束のない生活を目指す取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度高齢者虐待、身体拘束の勉強会を行っている。普段から倫理に関する内容を話し合い振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常的に学ぶ機会を設けてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、提供するサービス内容や利用料金等、パンフレット、資料を用いて、十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を築き、意見、要望などを常に聞き入れられる状況をつくり、運営に反映させるよう努めている。ご家族様からの要望や苦情に関しては会議にも報告している。	ホームで開催している行事の際には、家族の参加が得られており、交流の機会につなげている。家族からの要望等については、複数の職員が対応する体制がつけられている。また、毎月の利用者毎のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。幹部会議、管理者会議などでリーダー、管理者が会社に報告している。会議に代表者も2ヶ月に1度は参加、意見を聞いている。	毎月の職員会議が行われており、職員からの意見等は管理者やリーダーが把握し、毎月行われている運営法人の会議等に反映する取り組みが行われている。また、管理者による定期的な職員面談が行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の社内研修に出席、個々の職員が向上できるような機会を設けている。マニュアルの改訂、休憩時間などを見直し、職場環境の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修に関して年間でカリキュラムを作成全職員を対象に受講している。毎月ユニット会議でも勉強会開催。法人外の研修へは案内など掲示し職員が参加しやすい環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修などにでかけた際に交流はあるものの、その先の実践事例はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のペースに合わせ話を傾聴する姿勢を大切にしている、声かけの仕方や、本人の表情などから思いの共有に努めている。アセスメントの情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメントで必ずご意向をうかがっている、入所後もこまめに状況報告行い意見しやすい関係作りを行っている。ケアプランの見直し時にもご家族の要望を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントにて、必要な支援に関して初回プラン立案の際に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にしている実感を持ち、本人の能力、個性を活かした取組みがなされている。入居者同士が気遣い、助け合える関係が気づけるよう職員が間に入り、共に関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ホームでの様子をまとめた手書きの便りと写真をおおくりさせていただいている、面会時はご本人様との時間を大切にさせていただき、ご家族様にもお声かけさせていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などには、ゆっくりお話しして頂けるような環境を提供している。入所前のご友人と再会、会話を楽しんだり、買い物へ出かけた際など気軽に声を掛けあえる、関係ができています。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問したり、生活習慣を継続する等、関係継続にもつながっている。また、家族との外出の機会もつくりながら、食事や買い物をはじめ、親族の墓参りや法事等を通じた外出も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のコミュニケーションの橋渡しをスタッフがするようにしている。ご利用者様同士の相性など考え、リビング席を考えている。同じ作業などを、通して交流が持てるよう考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の心身の状態や事情を考慮し、移り住む先の関係者に対して十分に本人のことを伝え、できる限りの相談、支援を行っている。不幸の連絡などいただける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の計画に本人様の意向を汲み取る努力をしている。普段の会話や行動から意向や思い、希望を汲み取るようにしている。その方に合わせたコミュニケーションを検討、実践している。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する職員の気付き等が日常の支援につながるように情報交換等が行われている。また、毎月の職員間でのカンファレンスを実施しながら、定期的なアセスメントにつなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを通じて把握に努めて、居室になじみのものを持ってきていただいている。また、ご家族様との関わりの中からヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のご利用者様の生活パターンに合わせた、ケアを心がけ、職員同士情報の共有に努めている。まずは、行って頂き様子を見させていただく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月している、ケアの問題点は、その都度、担当者会議などで話し合いをおこなっている。モニタリング前にご家族様にご意見など、うかがえるよう、案内をお送りしている。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた見直しも行われている。また、職員間で日常的に介護計画の内容に関するチェック記録を残しており、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の体調やケアプランの実施状況や言動行動などを、職員全員が必ず目を通す記録物に記録している。1冊のファイルに記載し、勤務に入る前に目を通している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保険外サービスとして通院介助など適宜検討し必要ならば実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居様が活用できる資源を考え日々の生活の中に取り入れている。スーパー、花屋さんに仏花を買いに出かけたり、喫茶店に出かけたりしている。「子供110番」に登録し地域の児童の見守りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向に沿った医療機関への受診を行っている。受診の結果は家族へ電話でお伝えし、家族の医療に関しての要望も主治医に伝えるようにしている	ホーム協力医による定期的な訪問診療が行われている他にも、利用者の健康状態等に合わせたホーム職員による受診支援も行われている。また、運営法人の関連の訪問看護による利用者の健康チェックや医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回、訪問し利用者様の状態をチェックしていただき、職員に伝えてくださる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院のソーシャルワーカーを必ず通すようにしており、病院との連携に努めている。入居の問い合わせ等でMSWから連絡をいただくことも多く、交流を持っている。個別にサマリーを作成し提供させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応における指針を設けておりご同意いただいている。重度化した場合は、ご家族様、本人様、協力医師の意見を総合しホームの介護力も十分に説明して適切な支援ができるように努めています。	利用者が重度化した場合については、ホームでも可能な支援を行うこととしている。現状は、家族との話し合いを深めながら、意向等の確認が行われている。また、ホームでの生活を継続しながら、医療機関等の次の生活場所への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の会議にて勉強会を行い、その内容をユニット会議にて勉強会として行っている。救急多隊への情報提供表なども作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を実施しています。夜間を想定した訓練の開催も行っている。通報訓練や防災設備の確認、近隣の避難場所の確認をしている	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。ホームからも地域の災害訓練に参加する機会をつくり、協力関係に取り組んでいる。また、運営法人全体でホーム内の備蓄品の確保が行われている。	当ホームは水害が想定される地域でもあるため、水害を想定した継続的な取り組みや地域の方との協力関係に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お1人お1人が人生の大先輩という認識を忘れず、敬意をもって接している。また入浴時や排泄時にはプライバシーを損ねないような対応を心がけている。声掛けなどにも注意をしている。	運営法人の専門の委員会を通じて、毎月のスローガンを確認する取り組みが行われており、職員による利用者への対応を日常的に意識する機会がつけられている。また、接遇に関する職員研修も行われており、職員の振り返りにもつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リクエストメニューなど様々な場面でご本人様の意向を必ず聞くように啓蒙している。またご本人様から直接思いを口に出せるよう信頼関係の構築に努めている。入浴後の衣服をご自身より選んでいただく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様には、選択の自由を大切にしている。その方の暮らしを知るため、日ごろのコミュニケーションに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などその日着るものを職員と一緒にタンスより選んでいる。また外出レクの時はスカーフを巻いたり、お化粧をして出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者様とその日に食べたいものをお聞きし献立を決めるリクエストメニューを設けております。その他に鉄板のメニューを取り入れ食事を楽しんでいただいている。	ユニット毎にメニューをつくり、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。利用者も調理や片付け等に参加する取り組みも行われている。おやつ作りや利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の状況に合わせた食事を提供されている。水分摂取量の少ないかたは、水分チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行うように指示をしている。介助がいる方は声かけ、介助している。適宜歯科医師の往診もあり、夜間は義歯洗浄剤を使用しお預かりをしている利用者様もみえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のご利用者様が不快を感じないよう、失敗がなくなるようなケアをモニタリング会議などで検討し、実践している。	利用者全員の排泄記録を残しながら、日常的に職員間で情報を共有しており、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。利用者の中には排泄状態が改善した方もあり、トイレでの排泄の継続に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を心がけヨーグルトや汁物を提供させていただいている。また便秘の方は主治医と相談しながら下剤のコントロールし、適切な排便が行えるよう援助に努めている。日頃より軽度の運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね1日おきの入浴になっているが、その日の希望をお聞きし入浴していただいている、入浴時間も様々で、お話し好きの方は長くお話を楽しまれている。月に1回入浴楽しめる企画を考えている。	毎日の入浴の準備が行われており、利用者が1日おきに入浴できるような体制がつけられている。回数や時間にも柔軟に対応しており、意向等に合わせた支援が行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンにあわせ就寝ケアを行っている。みなさまに、安心して眠れるよう、傾聴したりテレビをみられたり個々のペースで休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全員が把握できるよう、管理者または職員が薬剤師さんからの説明を聞き、申し送りを行っている、また薬の説明ファイルを作成し、変更事項を記載し毎日目をとおすよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でのその人その人の役割を見つけ毎日実行できるよう支援している、また職員がひとりひとりにあった役割、楽しみを常に考え提供させていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月間予定に散歩を取り入れたり、ご希望のある方には都度対応している、また1日おきに食材の買い出しへ地域のスーパーに利用者様と出かけている、利用者様の馴染みのある場所や希望の場所をお聞きし毎月外出レクリエーションを企画している。	利用者がホーム周辺を散歩したり買い物に出かける等、日常的に外出する機会がつけられている。年間を通じて外出行事の取り組みが行われており、季節等に合わせた外出が行われている。また、運営法人の関連事業所との合同の外出行事も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、なるべくご自分で管理していただき、こちらで出納帳などをつけている。買い物の際もなるべく利用者様にお支払していただけるよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族電話したいと要望ある方に関しては、個別に対応させていただいている。また年に1回の暑中見舞いや年賀状のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた作品を利用者様と作成し、掲示させていただいている。常に利用者様の反応に目をくばり、掲示も工夫している。	利用者同士が落ち着いた生活ができるように、利用者の席等の配慮が行われており、利用者の中にはリビング以外の場所に椅子を置いて過ごしている方もいる。また、リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングTVまえや、廊下にソファを設置しており利用者同士会話を楽しんでみえ、職員もその輪の中に入れていただいている。また利用者同士の相性を考え席を配置させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に使い慣れたものを持ち込んでいただけるようさせていただいています。仏壇など持ち込んでいるかたもみえ、ご本人様の趣味に合わせて居室を飾っていただけよう支援しています。	居室には、利用者の馴染みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者が居室で穏やかに過ごすことができるような配慮も行われており、故郷の写真を飾る等の取り組みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な掲示は避け、生活を通して自立した生活を送れるよう常に検討している。		